

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	海の、山の、地域の生きものを知って守ろう！動物愛護週間イベント
事業主体 (連絡先)	一般社団法人 恩がえし I I L A
事業区分	(5)環境保全、景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	924,886 円 (うち支援金: 587,000 円)

事業内容

動物愛護週間イベント：「移動水族館」という方法を通して、天竜川が流れ着く駿河湾に生きものと海ゴミの現状を発信した。また、参加者が「エシカル消費」を意識するきっかけづくりのために、環境に配慮したストロー2種の配布と、キッチンカーなどにご協力いただき、ストローを試用できる場所を設けた。
 9月23日～25日 かざこし子どもの森公園 約900名
 河川清掃イベント：ボランティアを募り、市内の河川に落ちていたゴミを回収した。



【移動水族館ブースの様子】

事業効果

- ①参加者には、実際に海の生きものと海底から回収されたゴミを見ていただきながら、移動水族館スタッフによる解説を聞いていただいた。生きものだけでなく、ゴミについても興味深く見て行かれる方が多かった。
- ②プラスチックスマート協会の海ごみなどに関する啓発用パネルの展示は効果的だったようで、家族連れを中心に「ゴミはちゃんと捨てよう」といった会話が多数聞かれた。
- ③現状では、日常で意識的に選択しなければ、使用することが少ないと思われる、環境に配慮したストローを配布することで、その使い心地などを体験していただく機会を作れた。同時に行ったアンケートでは、エシカル消費につながるご回答が多かった。
- ④小学生を含め、初めて参加された方と活動したが、ゴミの多さを知っていただき、「またやりたい」という声もいただいた。

【目標・ねらい】

- ①海ゴミの現状とその原因を発信
- ②ゴミの適正な処理の重要性を発信
- ③環境にやさしい商品やサービスを選択する「エシカル消費」の意識啓発
- ④河川清掃活動の拡大

※自己評価【C】

【理由】

参加された方に対する、当初の目標・ねらいは達成できたが、台風や別のイベントと重なる時期であったため、集客が予想以上に伸びず、事業収入の確保が難しかったため。

今後の取り組み

参加者の反応を見る限り、普段は見るできない海の生きものの近くにおいて、海ゴミや地域のゴミの問題を発信する方法は、ゴミの適正な処理の重要性やエシカル消費を広める上で効果的であると感じた。
 しかし、今回は環境省が設定している9月20日～26日の「動物愛護週間」と関係づけて、9月後半にイベント日を設定したが、この時期には、台風の接近や学校の運動会やその他のイベントの開催も重なり、集客が予想より下回り、事業収入の確保が難しかった。
 今後、継続して類似のイベントを実施する際には、実施時期の変更や他のイベントとの協力も検討し、またキッチンカーなどの出店料徴収を行い、参加者ならびに、より安定した事業収入の増加を図る必要があると思われる。
 また、移動水族館への市民の興味低下を防ぐために、随時新しいオプション企画を追加するなど、イベン